

6. ぬかびら源泉郷地区

6-1. 基本計画方針

◆ 東大雪地域の玄関口・活動拠点としての機能の充実

- ぬかびら源泉郷地区は、温泉等の資源や各種施設等が集積し、民間の自然ガイドも活動する等、東大雪地域最大の利用拠点であり、東大雪地域の玄関口・活動拠点として位置付けられる。
- ぬかびら源泉郷地区には、東大雪地域全体の自然体験や自然環境保全に関する解説拠点・活動拠点、東大雪地域の自然から観光まで幅広く情報収集・発信する案内・情報提供拠点が求められ、利用者と地域との交流拠点等の役割の中核を担う拠点施設（ビジターセンター等）の整備を推進する。

◆ 既存施設・資源を有効に活用するためのソフト対策の充実とハード整備の連携

- ぬかびら源泉郷地区には、自然探勝利用に係わる施設が既に整備されている。しかし、解説・案内の不足や施設の老朽化等があり、有効に活用されるような方策を推進する。
- 「自然」、「温泉」、「歴史」、「健康・癒し」等をキーワードに、既存施設・資源の魅力を再発掘し、利用を促進する活動プログラムを検討した上で、展開するプログラムの内容に応じて既存施設・資源のレベルアップを図る。
- 多様な利用者層を想定し、新たに整備する施設においては可能な限りバリアフリー、ユニバーサルデザインの考え方を取り入れる。
- 環境負荷低減に向けた自然エネルギー（地中熱、太陽光等）の活用を推進する。

◆ 地区内の人々の流動を促す歩行動線のネットワーク

- 小鳥の村やネイチャートレイルを核に地区内及び周辺の既存歩道等を活用し、温泉街を取り巻く樹林での自然探勝と温泉街の街歩きを気軽に楽しめる歩行動線のネットワークを形成する。
- 利用者の適切な誘導を図るための案内・誘導サインや興味対象に関する解説サインの設置を検討する。

◆ 『森の中の温泉街』のイメージを実現する緑豊かな街並み整備

- 地区内を取り巻く豊かな森林とのつながりを創出し、新たな施設の整備や既存施設の再整備に当たっては、積極的に修景緑化を行う。

◆ 利用者目線にたった情報提供のしくみづくり

- 東大雪地域のリアルタイム情報を提供する。
- おもてなしの一環として、(地域の)人から人(利用者)へ直接伝える形の情報提供を目指す。

◆ 地域のまちづくりとの連携・東大雪全体をフィールドとした管理運営体制

- 温泉街の活性化を目指す地域の取り組みとの連携により、今後の東大雪地域の一体的な整備や管理運営体制の強化を図る。
- 利用者に対する的確な情報提供、利用マナーや地域の取り組みの普及啓発、整備だけでは対応できない事柄を補完するソフト対応等を行える体制づくりを推進する。
- 東大雪地域全体を対象フィールドとした、保全と利用のための管理運営体制づくりを推進する。

◆ ぬかびら源泉郷を取り巻く自然環境の保全

- セイヨウオオマルハナバチやルピナス等の外来種対策を推進する。
- 利用者のマナー、高山植物等の盗掘防止等の啓発活動を行う。

◆ 東大雪地域の自然環境の保護普及啓発活動及び調査・研究機能の充実

- 生態系・生物多様性の保全に係る調査・研究のネットワーク等体制づくりを進める。
- 多様な利用者層の参加を促進する体制づくりを進める。

6-2. ゾーニング計画

基本計画方針に基づき、以下のようにゾーンを設定する。

表 6-1 めかびら源泉郷地区のゾーニング

ゾーン名称	特徴・機能・役割等	既存の主要施設	今後の整備の方向性
中核施設ゾーン	<ul style="list-style-type: none"> •めかびら源泉郷地区のほぼ中心に位置し、中核ゾーンとして温泉街ゾーン、森林散策ゾーン、湖畔園地ゾーンを結びつける役割をもつ。 •めかびら源泉郷地区だけでなく、東大雪地域全体の保全と利用のための拠点施設として中核施設を配置し、情報受発信機能、活動案内機能、展示解説機能、休憩機能、自然環境保護普及啓発及び調査・研究機能等を果たす。 •国道 273 号通過旅行者をめかびら源泉郷に誘引する役割をもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> •寺の沢園地 •糠平駐車場 	<ul style="list-style-type: none"> •旧帯広開発建設部糠平道路建設事業所跡地に中核施設(環境省デジタルセンター・町連携施設)を整備する。 •利用者や地域住民の憩いの場として、中核施設及び周辺を一体的に再整備する。 •中核施設から北海道自然歩道等を結ぶ動線として、園路を整備する。
温泉街ゾーン	<ul style="list-style-type: none"> •中央園地周辺に宿泊施設が集積する利用者の宿泊・滞在拠点であるとともに、中央園地と中核施設の間には地域住民の住宅が集積する生活空間でもある。 •国道 273 号以外の街路への車両の進入を極力抑え、歩行者優先の空間を目指す。 •ひがし大雪博物館は閉鎖する予定となっている。 	<ul style="list-style-type: none"> •宿泊施設 •中央園地 •ひがし大雪博物館 •糠平温泉文化ホール •バスターミナル 	<ul style="list-style-type: none"> •中央園地は宿泊及び日帰り利用者や地域の人たちの憩いの場、交流の場として位置づけるとともに、『森の中の温泉街』のイメージの実現に向けた再整備を図る。 •温泉街ゾーンと中核施設ゾーンとの利用者の往来を促すため、利用者や宿泊利用者などの散策やもてなしの場として中核施設から中央園地までの街路を「温泉小路」として整備する。
森林散策ゾーン	<ul style="list-style-type: none"> •小鳥の村や糠平川沿いの溪流及び森林コースの散策路は、森林浴や動植物等自然観察の場となっている。 	<ul style="list-style-type: none"> •小鳥の村 •ネイチャートレイル 	<ul style="list-style-type: none"> •湖畔園地に繋がる散策路は散策を快適に楽しめる空間づくりを検討する。
湖畔園地ゾーン	<ul style="list-style-type: none"> •糠平湖の眺望、キャンプ、様々な自然体験活動を展開する緑地として位置づけられる。 •平坦な地形であり、北海道自然歩道や園地内の歩道を活用した散策・自然探勝利用 •上士幌町鉄道資料館、糠平川橋梁(コンクリートアーチ橋)といった旧国鉄士幌線の鉄道遺産 	<ul style="list-style-type: none"> •糠平湖畔園地 •糠平野営場 •上士幌町鉄道資料館 •北海道自然歩道(東大雪の道) 	<ul style="list-style-type: none"> •間近に糠平湖と接することのできる休息等の場を検討する。

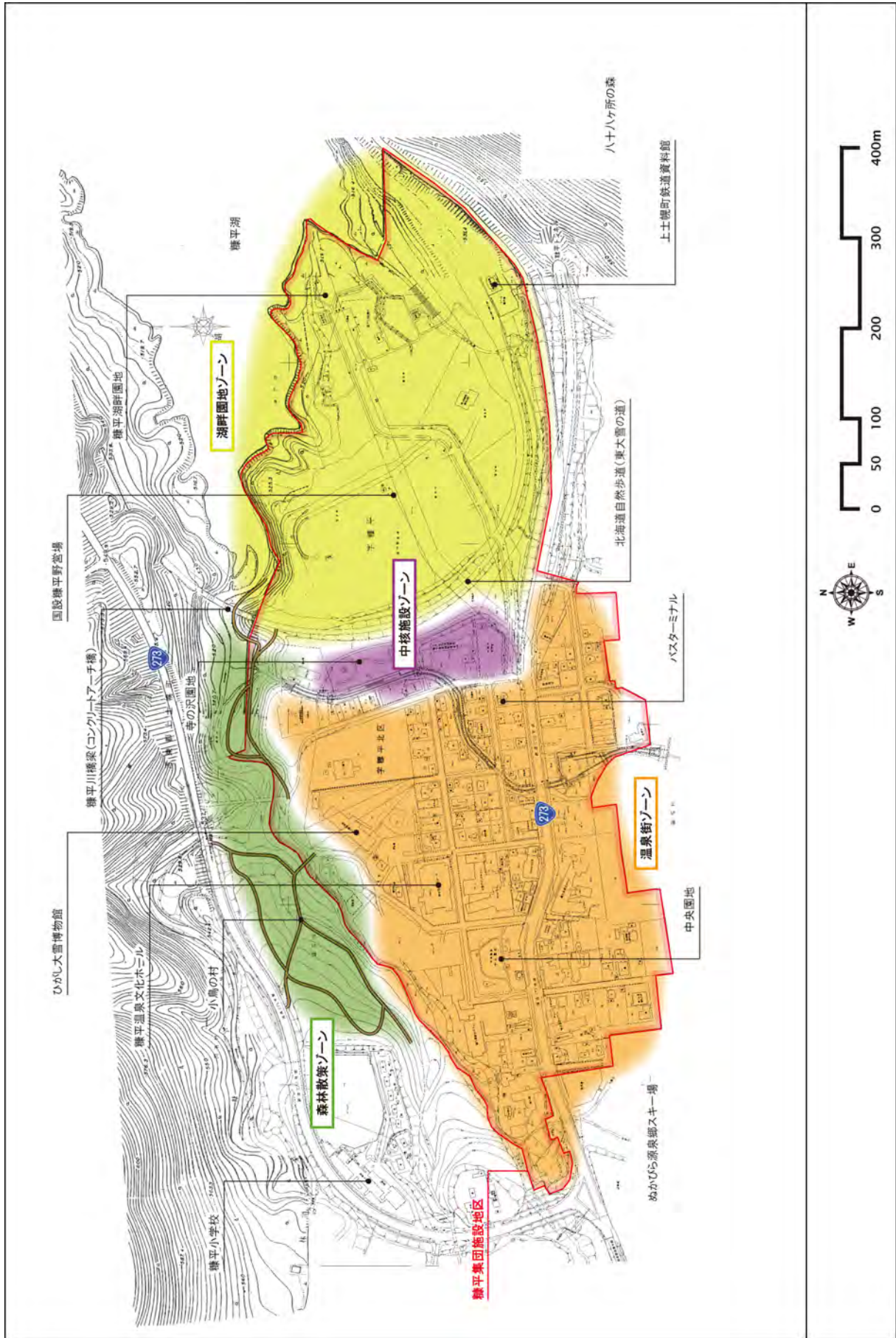


図 6-1 ゾーニング計画 (ぬかびら源泉郷地区)

6-3. 動線計画

中核施設ゾーンを核としたネットワークを形成する動線計画とする。

中核施設ゾーン及び中核施設ゾーンと温泉街ゾーンを結ぶ町道糠平北区8号線道路については、ハード対策とソフト対応の連携を図りながら、可能な限りバリアフリー、ユニバーサルデザインに配慮した動線となるよう検討する。

表 6-2 むかびら源泉郷地区の動線

動線名	特徴・機能・役割等
歩行者専用動線	<ul style="list-style-type: none"> 中核施設ゾーンを核に、森林散策ゾーン、湖畔園地ゾーンを結ぶ動線として位置づける。 小鳥の村・ネイチャートレイル、北海道自然歩道を主要動線として、湖畔園地内の園路等既存の歩道を活用しながら、小鳥の村や糠平湖畔といった自然資源及び糠平川橋梁(コンクリートアーチ橋)や鉄道資料館といった歴史資源の一体的利用の促進を図る。 中核施設を発着点とした既存歩道の活用を促進するため、中核施設と北海道自然歩道を連絡する歩道の新設を検討する。 既存歩道を活用することを基本に、必要に応じて安全・快適に歩行できるよう改良する。 歩道利用の魅力向上のため、休憩や自然観察利用の推進を検討する。 中核施設及びその周辺の歩道については、可能な限りすべての人にとって利用しやすい空間となるようバリアフリー対応を検討する。
歩車共存動線 (歩行者優先)	<ul style="list-style-type: none"> 国道 273 号を除く温泉街ゾーン内の街路が該当する。 町道糠平北区 8 号線道路を温泉街ゾーンと中核施設ゾーンを結ぶ主要動線「温泉小路」と位置づけ、街歩きを楽しみながら行き来できる動線とし、可能な限りすべての人にとって利用しやすい空間となるようバリアフリー対応を検討する。 地域関係者以外の車両の進入を極力回避し、より歩行者に優しい空間となるよう検討する。
歩車共存動線 (歩車分離)	<ul style="list-style-type: none"> 既存の歩車分離型道路を活用し、むかびら源泉郷地区における車両の主要動線として位置づける。 国道 273 号及び国道 273 号から中核施設、糠平駐車場及び湖畔園地への進入路が該当する。 湖畔園地への進入路については、湖畔までの歩行が困難な身障者等交通弱者のための動線としての機能ももつ。 中核施設及び湖畔園地の駐車場には、身障者用駐車スペースの配置を検討する。 国道 273 号の通過車両に対する利用者の安全確保に配慮が必要である。
車両アクセス動線	<ul style="list-style-type: none"> 上士幌市街・帯広方面及び幌加・十勝三股・三国峠・層雲峡・旭川方面と連絡する国道 273 号及び然別湖方面と連絡する道道 85 号鹿追糠平線が該当する。

6-4. 施設計画

6-4-1. 中核施設ゾーン

東大雪地域の主要利用拠点及び宿泊拠点であるぬかびら源泉郷地区において、利用者及び地域に密着した自然史や博物展示等のサービスを提供できるよう、中核施設として環境省ビジターセンターと町連携施設を整備する。

中核施設の位置は、道路通行者にわかりやすいものとするため、国道 273 号線からの視認性が良いこと、駐車場の確保が可能であること、ぬかびら源泉郷地区入口に位置し、地区内の各ゾーンを結びつける機能の連続性が確保できる面を重視し、旧帯広開発建設部糠平道路建設事業所跡地を計画地として選定する。

(1) 中核施設の計画条件

1) 建物の位置及び配置

- 建物の位置：旧帯広開発建設部糠平道路建設事業所跡地（約 3,000 m²）内
- 建物の配置：環境省ビジターセンター及び町連携施設を機能上一体として整備
- 利用快適性や街並み景観の面から中核施設ゾーンの魅力を高めるため、敷地内に駐車場及び中核施設の外構を整備するとともに、当該敷地に隣接する寺の沢園地や旧糠平保育所跡地と一体的な空間利用の可能性を検討する。

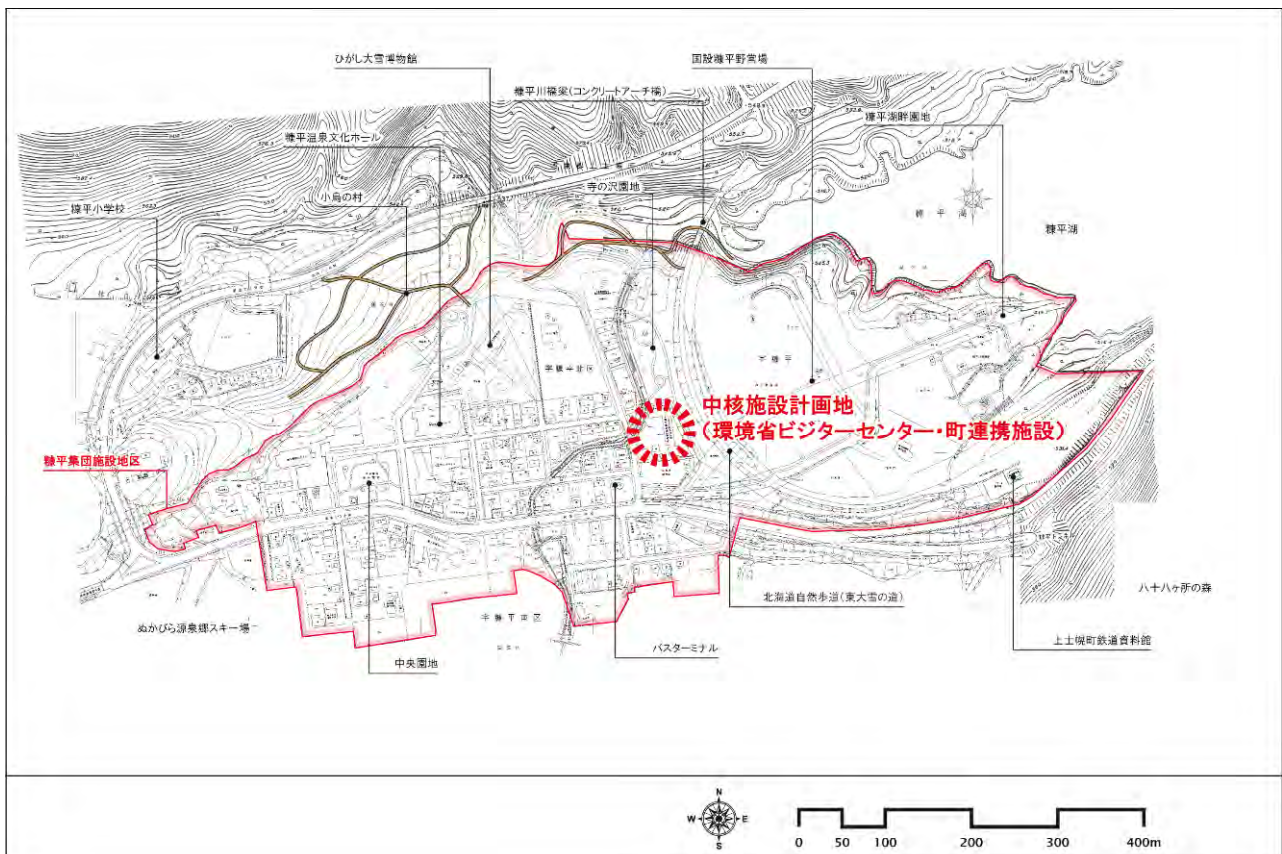


図 6-3 中核施設計画地の位置

2) 利用者の想定

① 利用者数の想定

ぬかびら源泉郷地区での最大時利用者数の実測データがないため、上士幌町の年間観光入込客数をもとに最大時利用者数を算定する。

- 最大日利用者数＝年間利用者数×最大日率
 - 年間利用者数＝312,900 人（平成 21 年度上士幌町観光入込客数）
 - 最大日率＝1／100（4 季型：スキー等の冬季入込もあることから）
$$\text{最大日利用者数} = 312,900 \times 1 / 100 = 3,129 \text{ 人}$$
- 最大時利用者数＝最大日利用者数×利用率×回転率
 - 最大日利用者数＝3,129 人
 - 利用率＝50%
 - 回転率＝1／7（平均滞在時間 20 分程度、ビジターセンターの標準的な数値）
$$\text{最大時利用者数} = 3,129 \times 0.5 \times 1 / 7 \approx 223 \text{ 人}$$

② 利用者層

30～50 代の家族連れの間を中心、多様な利用者層を想定した対応とする。

利用形態として、周辺観光の中継地としての通過型利用者、糠平温泉に宿泊する滞在型利用者が想定され、以下のような利用目的の利用者層を想定する。

- ぬかびら源泉郷を宿泊・滞在拠点とした自然体験・歴史資源目的の利用者
- ぬかびら源泉郷での健康増進・癒し目的の利用者
- ぬかびら源泉郷を宿泊・滞在拠点とした自然環境保全・復元活動への参加者
- 東大雪地域を訪れる一時立ち寄り利用者

(2) 果たすべき役割と機能

1) 中核施設の役割

中核施設は、【大雪山国立公園東大雪地域の自然環境の保全と利用のための総合的な拠点施設】として位置付け、以下のような役割を持たせる。

- 自然環境保全活動の拠点
- 利用促進と利用者の安全確保の拠点
- 情報収集・発信の拠点
- 自然体験及び植生復元等の活動拠点
- 調査・研究の活動拠点
- 自然環境や歴史を学ぶ拠点
- 管理運営の拠点

2) 中核施設の機能

中核施設に求められる機能は以下のように整理される。これらの機能の実現に当たっては、整備を行う環境省、上士幌町が相互に連携して取り組む。

表 6-3 中核施設に求められる機能

基本機能	中核施設に求められる機能
案内・情報提供機能	・リアルタイム情報を交え、自然から観光まで幅広い情報を網羅した東大雪地域の総合案内 ・東大雪地域の自然体験、植生復元等各種活動プログラムの案内 ・地域の観光振興のための物販(特産物・グッズ等)
解説機能	・東大雪地域を中心とする大雪山国立公園の自然環境の解説・展示 ・東大雪地域の歴史の解説・展示
自然保護 指導・促進機能	・東大雪地域の自然体験、植生復元等の活動の支援・誘導
休憩・便益機能	・東大雪地域及びぬかびら源泉郷来訪者のための休憩の場 ・中核施設利用者と地域との交流の場 ・簡易な情報収集(図書・資料閲覧、PC 検索等)の場
調査・研究機能	・大雪山国立公園を中心とする地域の自然等の調査研究、資料収集・整理・収蔵 ・利用者及び地域関係者への東大雪地域に関する案内・解説・情報発信のための情報収集・整理
管理・運営機能	・中核施設の日常的な維持管理 ・東大雪地域にあるフィールドの維持管理等の拠点 ・関係者の情報共有や人材育成等のための研修の場

(3) 基本的な考え方

- 環境省ビジターセンターと町連携施設がトータルで東大雪地域の保全と利用のための拠点施設となるよう、ハード・ソフト両面において両施設の明確な役割分担と密接な連携を図る。
- 町連携施設は、ひがし大雪博物館の展示物・収蔵物を有効に活用する。
- 地域の自然や文化に関する案内・解説のできる人を配置し、スタッフから利用者へ直接情報を伝えることを重視した施設とする。
- 来訪者、地域関係者との交流を通して、リアルタイムの情報が集まる・提供される施設を目指す。
- 来訪者と地域の活発な交流を通して、地域の活性化に寄与する。
- 国道 273 号線からの視認性への配慮や『森の中の温泉街』のイメージにふさわしい意匠とする。
- 多様な利用者層を想定し、バリアフリー、ユニバーサルデザインに配慮した施設とする。
- 周辺施設との役割分担・連携をふまえ、施設規模を検討する。
- 冬季の維持管理、光熱費等コスト縮減に配慮した形態・構造とする。
- 環境負荷低減に向けた自然エネルギー（地中熱、太陽光等）の活用を検討する。
- 周辺施設・資源を活用したぬかびら源泉郷地区での散策利用の発着点として、周辺の歩道等との一体的な整備を検討する。

(4) 施設構成

果たすべき役割や機能に基づき、必要な諸室（スペース）を以下のように整理する。

環境省ビジターセンターと町連携施設を一体的に利用できるよう、明確な役割・機能分担と連携をもって必要なスペースを配置するとともに、両施設のスムーズな利用動線を確保する。

表 6-4 中核施設に求められる機能と施設構成

基本機能	中核施設に求められる機能	諸室
案内・情報提供機能	・リアルタイム情報を交え、自然から観光まで幅広い情報を網羅した東大雪地域の総合案内 ・東大雪地域の自然体験、植生復元等各種活動プログラムの案内 ・地域の観光振興のための物販(特産物・グッズ等)	案内カウンター、レクチャールーム、事務室
解説機能	・東大雪地域を中心とする大雪山国立公園の自然環境の解説・展示 ・東大雪地域の歴史の解説・展示	展示室、案内カウンター、
自然保護指導・促進機能	・東大雪地域の自然保護普及啓発、植生復元等の活動の支援・誘導及び自然体験活動の促進	案内カウンター、レクチャールーム、多目的スペース
休憩・便益機能	・東大雪地域及びぬかびら源泉郷来訪者のための休憩の場 ・中核施設利用者と地域との交流の場 ・簡易な情報収集(図書・資料閲覧、PC 検索等)の場	多目的スペース、休憩スペース、トイレ
調査・研究機能	・大雪山国立公園を中心とする地域の自然等の調査研究、資料収集・整理・収蔵 ・利用者及び地域関係者への東大雪地域に関する案内・解説・情報発信のための各種情報収集・整理	研究室、収蔵室
管理・運営機能	・中核施設の日常的な維持管理 ・東大雪地域にあるフィールドの維持管理等の拠点 ・関係者の情報共有や人材育成等のための研修の場	案内カウンター、事務室

表 6-5 環境省ビジターセンターと町連携施設における諸室の分担（案）

諸室	環境省ビジターセンター	町連携施設
基本スペース	展示室	○ ・大雪山国立公園の東大雪を中心とした自然や利用に関する展示。 ・世界の昆虫を中心とした昆虫類の展示。大雪山国立公園を中心とした昆虫や魚類の生体展示。
	多目的・レクチャールーム（視聴覚室）	○ ・環境省施設と町連携施設が単独あるいは共同で行う講座等の教育普及事業で活用。 ・レクチャールームとして使用しない時は、多目的ルームとして使用する。 ・写真展や企画展の開催等の活用を図る。
	案内カウンター	○ ・総合案内窓口としての機能。 ・スタッフが利用者へ直接情報を伝えることを可能にする。 ・人と人とのつながりを重視し、スタッフと利用者とのコミュニケーションを充実できるような配置とする。
	トイレ	○ 男性用、女性用、身障者用
	事務室・物販スペース	×
	休憩スペース	○ ・地域の自然情報や観光情報を入手できるくつろぎのスペース。図書・資料閲覧スペースと兼ねる。
充実スペース	研究室	○ ・標本の作製、資料の整理、昆虫等の飼育スペースと図書・文献の設置。
	収蔵室	○ ・動植物、昆虫、岩石等資料の収蔵。
		×

○:必要である ×:必要としない

(5) 規模設定

1) 基本スペース

- 環境省ビジターセンターの基本スペース面積は、「自然公園等事業技術指針」に示される最大時利用者数による手法から算定すると以下のようになる。
- 施設面積（基本スペース）＝最大時利用者数×単位面積
 - 最大時利用者数＝223 人
 - 単位面積＝2 m²/人
$$\text{最大日利用者数} = 223 \text{ 人} \times 2 \text{ m}^2/\text{人} = 446 \text{ m}^2$$
- 環境省ビジターセンターと町連携施設における諸室の分担（案）から、事務室を町連携施設に集約し、環境省ビジターセンターでは、展示室や案内カウンターの充実、トイレの身障者対応に配分する。

2) 充実スペース

- 中核施設の充実スペースとして以下の諸室が必要と考えられ、規模は標準的に以下のとおりである。
 - 休憩スペース 規模目安 30～40 m²
 - 研究室または資料室 規模目安 30～40 m²
- 中核施設全体として、ひがし大雪博物館の展示物等の収蔵スペース及び調査研究機能維持のための研究室が必要であるが、環境省ビジターセンターと町連携施設における諸室の分担（案）から、環境省ビジターセンターでは、図書・資料閲覧スペースを兼ねた休憩スペースを設ける。

3) 諸室規模

- 上記の基本スペース及び充実スペースの考え方に基づき、「自然公園等事業技術指針」に示される算定規模を参考に、表 5-4-1-5 のとおり環境省ビジターセンターの諸室規模を設定する。
- 基本スペースと充実スペースを合わせた環境省ビジターセンターの建物規模は約 480 m²と設定される。
 - 基本スペース 約 440 m²
 - 展示室、多目的・レクチャールーム（視聴覚室）、案内カウンター、入口・ロビー・廊下、トイレ
 - 充実スペース 約 40 m²
 - 休憩スペース
 - 合計 約 480 m²

表 6-6 諸室規模の設定

諸室	規模目安	計画案(㎡)		備考	
		環境省 ビクターセンター	(町連携施設)		
基本スペース	展示室	単位規模 4~5 ㎡/人	250 ㎡	—	
			—	○	
	多目的・ レクチャー ルーム (視聴覚室)	単位規模 1.5~2 ㎡/人	60 ㎡	—	30 人規模 レクチャールームとして使用しない時は、多目的ルームとして使用(写真展や企画展の開催等)
	案内 カウンター	標準規模 5 ㎡	15 ㎡	—	スタッフと利用者とのコミュニケーションを充実できるように 標準より広めにスペースを確保
	事務室・ 物販スペース	単位規模 4 ㎡/人(一般職) +5 ㎡(湯沸室等)		○	
	入口・ロビー ・廊下	標準規模 40~50 ㎡	25 ㎡	○	
	物品庫	標準規模 30~40 ㎡	30 ㎡	—	
	機械室	—	15 ㎡	—	
小計		440 ㎡			
充実スペース	休憩 スペース	標準規模 30~40 ㎡	40 ㎡	—	
	研究室	標準規模 30 ㎡	—	○	
	收藏室	標準規模 30 ㎡	—	○	
	小計		40 ㎡		
合計		480 ㎡			

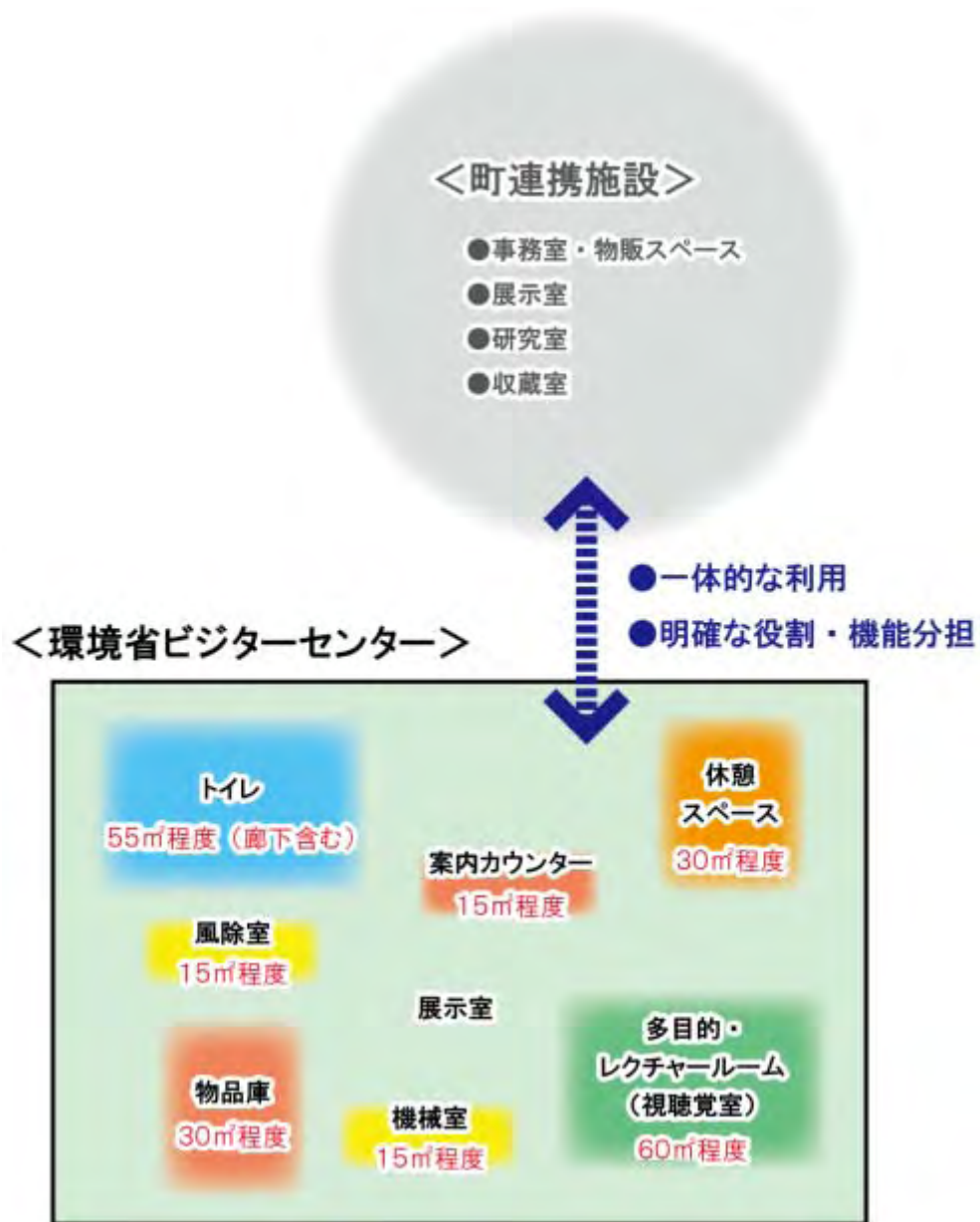


図 6-4 環境省ビジターセンターの諸室配置イメージ (案)

(6) 付帯施設及び施設配置

- 旧帯広開発建設部糠平道路建設事業所跡地内に中核施設（環境省ビジターセンター・町連携施設）、駐車場（約700㎡）を整備し、修景緑化を図る。
- 駐車場には身障者用スペースを設け、中核施設までの円滑な移動が確保できるよう検討する。
- 臨時駐車場として、旧糠平保育所跡地の活用を検討する。
- 中核施設と駐車場、さらには北海道自然歩道や寺の沢園地、臨時駐車場（旧糠平保育所跡地）を連絡する利用動線（園路整備）を検討する。

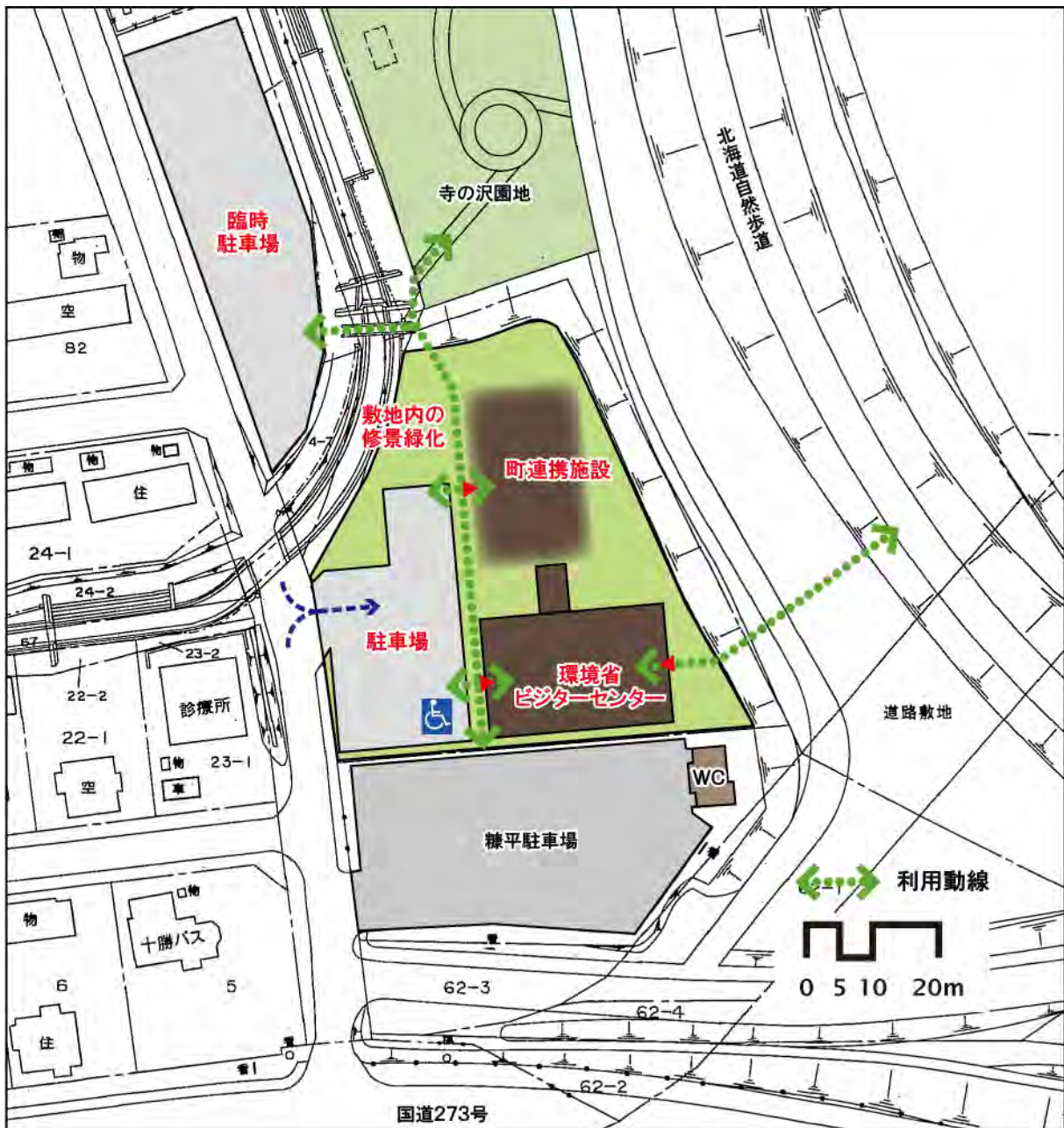


図 6-5 中核施設及び付帯施設の配置イメージ (案)

6-4-2. 温泉街ゾーン

(1) 町道糠平北区 8 号線道路「温泉小道」

- めかびら源泉郷地区の中央に位置し、温泉街とビジターセンター及び湖畔園地を結ぶ主要動線となる町道糠平北区 8 号線道路を「温泉小道」として、散策を通じて自然豊かな温泉街としての魅力を感じてもらうための整備を行う。
- 通行車両は主として地域住民によるものと考えられ、コミュニティ道路として歩道及び植栽の充実を図る。
- 消防活動や荷物搬出入車両の通行に配慮し、車両通行幅は路肩を含めた最低 4.00m を確保し、適宜待避所（総幅員 5.50m）を設ける。
- 該当区間の縦断勾配は最急で約 5% であることから、可能な限りバリアフリーに配慮した整備とするとともに、地元関係者との協力のもと「心のバリアフリー」と組み合わせた利用しやすい街路を目指す。
- 整備主体：上士幌町

(2) 中央園地

- 来訪者や地域住民の休憩・交流の拠点となる公園、国道を通行する利用者を誘引し温泉街へ誘う役割をもつ公園として位置づける。
- エントランスの明確化や休憩・交流の場となる広場整備といった施設の再整備とあわせて、『森の中の温泉街』のイメージにつながる郷土産樹種による植栽等を行う。
- 隣接する旧大雪グランドホテル跡地との一体的整備の可能性については、引き続き検討する。
- 整備主体：上士幌町

6-4-3. 森林散策ゾーン

- 小鳥の村・ネイチャートレイルは、めかびら源泉郷への来訪者が気軽に自然に触れることのできる場として位置づけられる。中核施設や温泉街、湖畔園地との繋がりを強め、めかびら源泉郷地区を一体的に周遊できる主要動線を構成する区間として、関係機関と連携のもと、歩道利用の安全性・快適性の向上を図ることを検討する。

6-4-4. サイン

- 関係機関との連携のもと、動線の主要な交差点部に案内サインを設置する。

6-4-5. その他の施設

- 湖畔園地、野営場等の施設については、施設管理者において適切に管理する。
- ひがし大雪博物館は町連携施設に機能を移転することから、当該施設及び周辺地域の利活用について今後検討を進める。

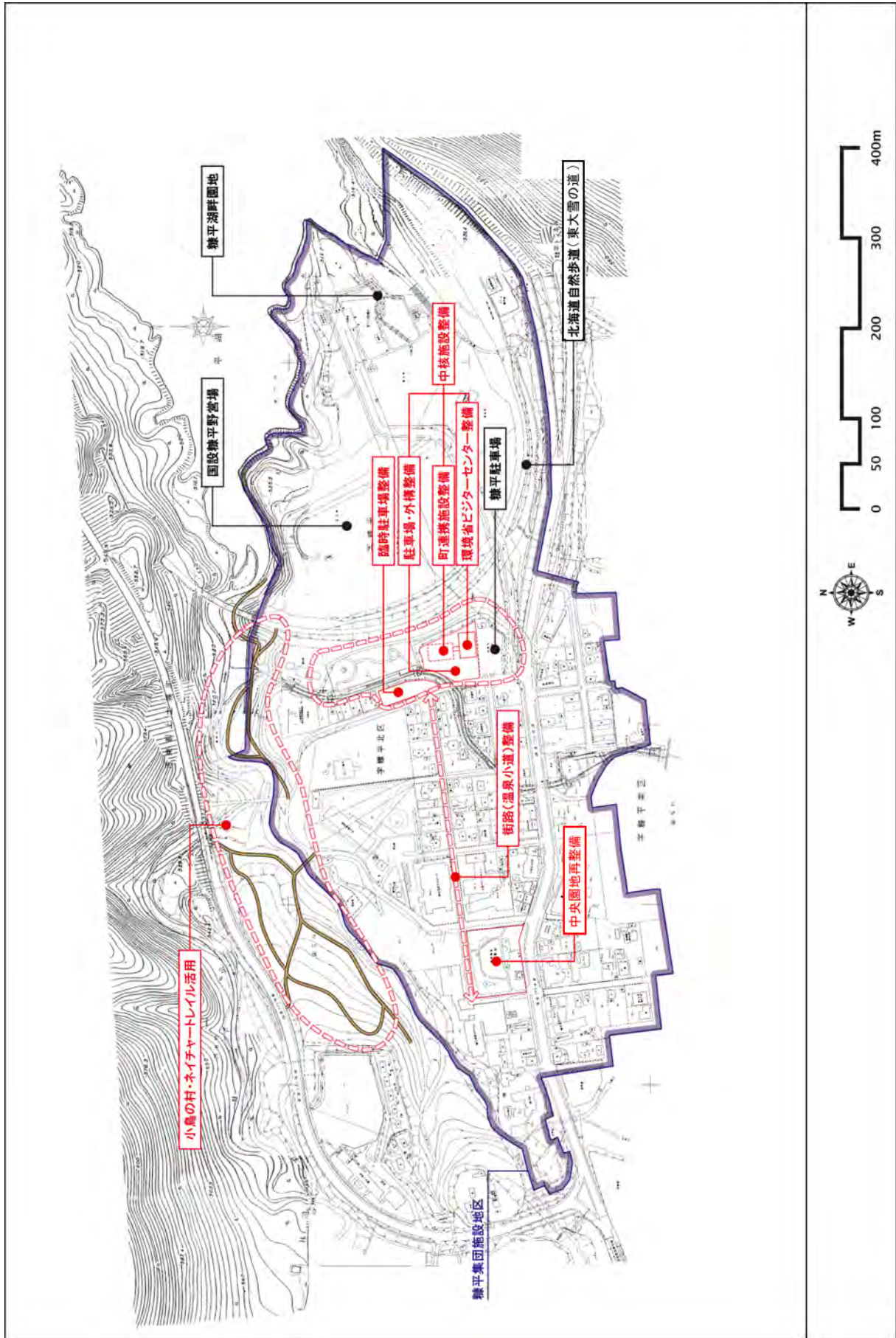


図 6-6 施設計画 (ぬかびら源泉郷地区)